

## 平成 28 年度学校協議会

### < 協議会委員 > (敬称略)

- ・古郷 幹彦 (大阪大学大学院歯学研究科教授)
- ・森田 英嗣 (大阪教育大学教育学部教授)
- ・高尾 千秋 (神戸大学発達科学部非常勤講師)
- ・竹村 伍郎 (地域情報誌「うえまち」編集局長)
- ・前園 幸 (本校 PTA 会長)
- ・中川 哲也 (本校前 PTA 会長)

### ／平成 28 年度 第 1 回学校協議会議事録

○日 時 : 平成 28 年 7 月 21 日 (木) 19 時～20 時

○場 所 : 大阪府立高津高校 校長室

○出席者 (敬称略、委員は 50 音順)

- 委員 古郷 幹彦 (大阪大学大学院歯学研究科教授)
- 高尾 千秋 (神戸大学発達科学部非常勤講師)
- 竹村 伍郎 (地域情報誌「うえまち」編集局長)
- 中川 哲也 (本校前 P T A 会長)
- 前園 幸 (本校 P T A 会長)

#### 事務局

- 村田 徹 (校長) 上田 信雄 (教頭)、石田 暁 (事務長)
- 伊勢田 佳典 (首席)、山口 優 (首席)、
- 菅 康之 (企画広報部長)、宮本 克比古 (企画広報部・記録係)

#### 【会議概要】

##### 1. 校長挨拶

##### 2. 学校からの説明

(1) 「平成 28 年度学校経営計画及び学校評価」等について

長期目標である「めざす学校像」をはじめ、基本的には平成 27 年度学校経営計画方針を踏襲、2 年後に創立 100 周年を迎えるが、さらにその先までを見据えて、引き続き目標達成に向けて取り組む。

\*以下、項目と概要を列記する。

○「中期的目標」について

平成 27 年度に掲げた中期目標については、平成 27 年度中にほぼ達成できたので、本年は多くの項目で「引き続き維持する」という表現になっている。ただし、以下の点については、やや不十分であったため、今後、さらに力を入れて取り組みたい。

・「年間の遅刻者総数」(H27 : 2,137 件)

平成 29 年度までに 2,000 件以下とし、維持する。

・教職員の育成

今年度、新規採用教員（5 人）に加えて、経験年数 3 年以下の教員を対象に、首席を中心とした本校独自の「初任者“層”研修」を実施している。インプットに偏りがちな従来の内容も見直し、秋に職員会議でのプレゼンテーション機会を設定するなど、アウトプットする力の早期育成をめざしている。

・「学校の組織的運営」「校務の効率化及び情報共有」

教員向け学校教育自己診断での肯定的評価においては、一定の向上が見られたが、さらなる向上をめざして、引き続き、昨年度立ち上げた「学力向上委員会」での検討を進めていく。

○「本年度の重点目標」について

・生徒たちが自らの状況を把握し、夏季休暇中の自学自習に取り組みやすくなるよう、今年度から前期第 2 中間考査（7 月初旬）を実施することとした。今後、その影響、効果を追跡調査する。

・生徒の進路希望が叶えられるよう、さらに魅力的な授業展開に努めるとともに、生徒たちが、これからの時代に求められる知識、技能を、より効果的・効率的に身につけられるよう、観点別評価の導入を図る。

・今年度から、TOEFLiBT への対応に焦点を当てたアドバンスト・イングリッシュコースを導入した。SET も配置され、順調に展開できている。

・学校教育自己診断におけるアンケートの項目には、例えば教育相談に関する質問のように、その機能を活用していない保護者には答えられないものがある。そのため、評価計算の際、「わからない」という回答は除くこととした。

・教員向け学校教育自己診断での「校務の効率化及び情報共有」に対する肯定的意見が目標値に達しなかった（H27:63%）ので、さらなる改善に努める。

(2) 平成 27 年度 GLHS 評価について

・教職員、生徒はもとより、保護者・同窓会の皆さんも含めて目標達成に向けて一丸とな

って取り組んでいただいた結果、6月に開かれたGLHS評価審議会において、多くの項目で昨年度を上回る高い評価を得ることができ、総合評価は「AA」（最高：AAA）、10段階評価でも「9」という高い評価をいただいた。

### （3）その他

#### ○ 急速な情報化進展等に伴う、青少年を巡る懸念について

SNS等が介在した青少年（には限らないが）による痛ましい事件等が増加している。程度や内容は異なるが、本校でも、SNS等には限らず、背景に「悪意や“思うところ”があつて」というよりは、単純に、深く考えずに行つた「幼く、マナーに反した言動」により生じた残念な事象も散見される。このような傾向について、その原因や対応を整理しておく必要を感じており、各委員の認識、お考え等をご教示いただきたい。

## 3. 質疑応答、及びご意見

### （1）「平成28年度学校経営計画及び学校評価」等について

・学校経営計画に基づく取組みは、中期目標・年度重点目標ともに、概ね順調に進んでいるように感じる。

・学習については、高校生にもなれば、最終的にはやはり“自学自習”が大切になるものであり、生徒たちが自らの状況を正しく把握できる機会を用意することが、高校の役割だろう。第2中間考査の導入は、そういう意味で決して生徒の自主性を阻害するものではないと考える。生徒の自学自習に効果的に結びつくよう工夫をしつつ、計画的に進めていただきたい。

・「遅刻」に対する指導は、細かいことのように感じられるかもしれないが、社会人にもなれば、一度の遅刻が信頼を根こそぎ失うことにもつながりかねないことや、学校生活においても基本となることだと思つるので、さらなる減少をめざして丁寧に進めてもらいたい。

・教職員の育成に関しては、素晴らしい先生方がおられることが、やはり学校教育の要だと思う。社会状況自体が急速に変化していく中、単にこれまでの前例踏襲的なインプットにとどまらず、経験の浅い先生方によるアウトプットを大切にしようという姿勢も評価できる。伝統の上に新しい息吹が吹き込まれる可能性もあり、結果に期待したい。

### （2）平成27年度GLHS評価について

・一般論として、「評価」の目的の一つは、良い意味で切磋琢磨を促すという面があると考えている。もちろん外部評価がすべてではないが、そういう意味では、他の似た環境の高校間での客観的・相対的な評価が向上していることは、素直に歓迎すればよいだろう。

・評価の向上は、自習室の提供、土曜講習の全員参加、第2中間考査の導入など、この間の学校の前向きな取組みが、生徒の理解を得て、生徒自身の意識の向上につながっている

ことの表れだと捉えている。引き続き、生徒たち自身が高津の校訓・校是である“自由と創造”“日進日新”をさらに体現できるよう、一丸となって取り組んでもらいたい。

### (3) 急速な情報化進展等に伴う、青少年を巡る懸念について

・昔の高津の生徒は、どちらかと言うと「背伸びをする」生徒が多かったように思うが、社会的風潮の変化の中で、子どもたちは物事を軽くとらえ過ぎ、精神的に幼いまま、年齢だけを重ねてしまっているように感じることもある。この幼さは、いわゆる「成績」とは、あまり関係がないようだ。

・今の高校生のマナーの悪さは高津生に限ったことではない。また、いわゆる学力とマナーの間に相関はあまり見られず、どの高校でも問題になっているようだ。

・学区が撤廃され通学エリアが広がった影響か、遠くから通学している子どもにとって、学校が「なじみの薄いアウェイの地」になってはいないか。昔は地域性があって、一定の抑止力が働いたが、エリアの広がりとともに、生徒たちの規範意識のスタンダードが薄れているように感じる。地域に出かけて大人と接する体験を増やし、注意してくれる大人がいることで、子どもたちも成長できるのではないか。

・地域との繋がりの希薄さに加えて、中学校からの知り合いが少なく集団がうまく形成されていないのかもしれない。(本年度の1年生は、府内150~60中学校から入学) 集団がうまく形成されていれば、友人の問題行動を批判することもできるが、集団がうまく形成されていないと、表面的な付き合いにとどまり、深く関わらないで過ぎてしまうこともある。

・SNSについては、(例え、好ましくない内容であっても)「注目を浴びるコメント等」を載せることで、「ヒーローになれる」という価値観を持っている子どもも少なくないと聞く。身近に不適切な内容を載せている子がいても、注意するのではなくスルーしてしまう。「おもしろいやん」と返す子さえ何人かいるのが現状で、現実の問題としては、人間関係が薄い中では注意するのは難しいのかもしれない。

・「悪ふざけの範囲内」という甘えがあるのかもしれないが、未成年であっても、犯罪は犯罪であり、小さなことからきっちりと説明・指導してあげることが必要だ。友人が不適切な行動をとったとき、馴れ合いの関係だと反論することができないし、今の子どもたちは、その術も知らないことが多い。問題が起きた時にクラス内で話し合うなど、ディスカッションの機会を持つことも大切だろう。

・校則を明文化して守らせるのではなく、生徒の自主性にまかせていることも、高津高校の特長の一つだと捉えている。明文化された校則がないと指導しにくい場面もあるだろうが、一人ひとりの教職員が、子どもたちの不適切な言動について見逃すことなく、各々の立場から適切な指導を行うことが不可欠だ。もちろん、教職員の皆さんには、常に取り組んでいただいております「釈迦に説法」だと思うが、単に「物分かりの良い教師」というだけでなく、時間はかかるが「校則を明文化して守らせることをしないことの意味」を、引き続きしっかりと生徒に伝えてもらいたい。

今後の日程（予定）

第2回 平成28年12月下旬

第3回 平成29年3月下旬

／平成28年度 第2回学校協議会議事録

○日時：平成28年12月22日（木） 18時30分～19時30分

○場所：大阪府立高津高校 校長室

○出席者（敬称略、委員は50音順）

委員

高尾 千秋（神戸大学発達科学部非常勤講師）

竹村 伍郎（地域情報誌「うえまち」編集局長）

中川 哲也（本校前PTA会長）

前園 幸（本校PTA会長）

事務局

村田 徹（校長）、上田 信雄（教頭）、山口 優（首席）

菅 康之（企画広報部長）、徳谷 幸之助（企画広報部・記録係）

【会議概要】

1. 校長挨拶

2. 学校からの説明

（1）平成28年度学校経営計画及び学校評価について

※ 学校経営計画における到達目標について、多くの項目で成果指標としている「学校教育自己診断」を12月上旬に実施し、現在、集計を行っている。最終的な結果は、第3回の本会で報告することとし、今回は、現時点での計画の進捗状況を中心に報告する。

○「本年度の重点目標」について

・文理学科の課題研究講座の充実

大学等外部機関との連携事業の参加者数について、今年度は11月2日現在で1,239人に達しており、年度末には、昨年度の総計1,388人を上回り、1,400人を超える見込み。AEコースを立ち上げ、TOEFLへの対応を進める中、英語・語学研修の参加者数について多少の減少が見られるが、大阪市立大学文学部・理学部の特別講義や、大阪大学情報科学研・レーザー研の見学に、多数の生徒が参加したことが、全体数の増加につながっている。

・土曜講習や補習等の内容の充実

第70期生に続き、第71期生についても土曜講習を全員に必修としており、第71期生については、生徒からの要望に応え、後期から自習の選択も可とするなど、高津生の実態に応じた「より良い形」を追求しており、さらに充実させたい。

・教員の教科指導力の向上

生徒授業アンケート全質問の平均値について、7月実施の第1回分では目標の3.2以上を達成。12月上旬に第2回を実施した。近日中に集計完了の見込み。

・ミドルリーダーや経験の少ない教員の育成

4つのPT（プロジェクトチーム）を設置し、ミドルリーダーを中心に精力的に取り組んでいる。とりわけ、経験年数3年以下の教員が、11月に職員会議でプレゼンテーションを行い、ICTのさらなる有効活用・効果的な情報共有や行事の見直し、スクラップ&ビルドの必要性が提言された。これらの意見を柔軟に反映させ、その実現に向けて学校全体で進んでいきたい。

・年間の遅刻者総数を平成29年度までに2,000件以下とし、維持する。

11月末現在、今年度の遅刻者総数は、昨年度の同時期と比較して、第1学年：-85件、第2学年：+16件、第3学年：+199件 となっている。

増加している要因の一つとして、いわゆる課題を抱えている生徒が増加していることが考えられるが、今後も遅刻者数の減少に努めていく。

(2) 平成29年度記念祭について

・例年9月に実施してきた体育祭において、熱中症とみられる症状により救護を受けた生

徒が 30 人以上にのぼり、うち 1 人は、現在は元気に活動してくれているが、3 日間の入院、1 日の自宅静養が必要となる事態が生じた。

・熱中症の予防に向け、テント・ミスト発生機の設置、1 人につき飲料 2 本の配付、空調設備のある記念館を休憩室として開放、肉体的負荷が大きいと考えられる競技を比較的低気温である午前実施する等のプログラムの工夫、保健の授業において事前に熱中症予防の啓発を行うなど、学校としては考えられる最大限の備えを行ってきたつもりだが、それでもこのような事態が起こった。この事実を踏まえ、生徒の安全面を考慮した結果、体育祭の 9 月実施は続行不可能と判断し、来年度については 6 月に体育祭、9 月に文化祭という形で記念祭を実施し、新たな伝統のスタートと位置付けることとした。

### (3) 創立 100 周年に向けて

・おかげさまで、順調に募金額が伸びている。年明けには、4 つの組織（同窓会、PTA、校風クラブ、学校）の代表者が集まり、今後の進め方や、クリエイト・ラボをはじめ、これまで積み上げてきている計画の進捗状況の共有を行う予定をしている。

・クリエイト・ラボにおいては、学校として、昼休み・放課後のみでなく、正課科目内での活用も行う。また、同窓会での使用や、卒業生による在校生向けの講演を行うなど、卒業生の関与を深めた活動を行う。加えて、地域の人々と生徒・同窓生の交流の場等としての活用もめざしていきたい。

### (4) その他

#### ○全校一斉退庁・ノークラブデーについて

・教職員の「働き方改革」や、生徒も含めた健康管理の観点から、長時間勤務の縮減を図るべく、遅くとも午後 7 時までには全員が退庁する「全校一斉退庁日」を週 1 回（平日）設定するよう、12 月 7 日付で教育長から各校に通達があった。

→ 本校において「全校一斉退庁日」を設定するには、平日午後 8 時まで開室している自習室の扱いがポイントになる。そこで、これまでの自習室利用者数を調べた結果、金曜日の利用が最も少ないため、金曜日をノー自習室デー、ならびに全校一斉退庁日とする。ただし、本年度に関しては、年度途中でもあり、自習室は従来通り開室し、ノークラブデーについて平成 29 年 1 月から試行し、同 4 月から完全実施の予定。

#### ○2020 年の教育改革に向けて

・アクティブラーニングとカリキュラムマネジメントを 2 本柱に

→ カリキュラムマネジメントについては、授業だけでなく行事などの位置付けも含めて考

える必要がある。そこで、一目見てすぐに理解できる本校独自の「スクールマップ」を作成した。来年以降、学校説明会等で活用していく予定。

### 3. 質疑応答、及びご意見

#### (1) 平成 28 年度学校経営計画及び学校評価について

・外部連携事業の参加者総数について、現時点では昨年度と比べて 149 少ないが、今後の増加の見通しはどのようになっているか。

→ 英検(50)、日韓高校生環境フォーラム(10)、マレーササイエンスツアー(20)、GLHS 合同発表会(2/12・90)、根岸英一氏講演会(3/5・60)、国内語学研修(5)、九州サイエンスツアー(25)など、未実施の事業が一定あるので、最終的には、昨年度の参加者総数を確実に上回る見込み。\* ( ) 内の数は参加予定者概数

#### (2) 平成 29 年度記念祭について

・来年度は6月に体育祭を実施するとのことだが、その具体的な日程は決定しているのか。

→ 現在、来年度の行事予定を作成している途中だが、おおよそ6月初・中旬までの実施を考えている。気温の上昇傾向や、梅雨との兼ね合い、さらには定期考査等も考慮して、生徒に負担がかかりすぎず、できる限りの充実感が得られるような行事予定を慎重に決定していきたい。

#### (3) 創立 100 周年に向けて

・クリエイト・ラボの構想自体は素晴らしいものであり、特に学区が撤廃され大阪府内全域から生徒が集まる中、地域の人々との交流の場として使用することは、高津生としての地元意識を高める上でも有効であると思われる。しかし、一方でそのランニング費用も継続的に必要になると思われるが、シミュレーションはできているか。

→ 厳密には決められていないが、100周年に向け集めていただく基金などを充てる予定。また、活用方針の中で述べたように、卒業生はもとより、地域の皆様にも広く使用していただける場とし、その際に寄付をお願いするなど、地域全体で支えていただける施設になればと考えている。一方で、タブレットを用いたプレゼンテーションの実施や、テレビ電話を用いた遠隔地との会議の実施など、生徒により良い学びを提供する上では常に最新の優れた機器を備えておくことが大切であり、費用面と設備面の折り合いをどのようにつけていくかが、今後の最大の課題である。

・神戸大学でも本年度当初にラーニング・コモンズを造ったが、6月に配線や機器の関係



で作り直しを行わなければならなくなった。機器については買い取りや月単位のリースなど、多様な選択肢を踏まえて十分検討して取り組んでもらいたい。

#### (4) その他

##### ①防災対策

・近年大きな自然災害が多発しており、大阪においても南海トラフ地震の深刻な被害が予測される中、高津高校の防災体制は十分か。全学区制になり、広範囲から通学している生徒に対して防災意識を高めさせる教育を行うといったことのほか、実際に災害が起こった際には、帰宅困難に陥る生徒が発生する可能性や、一時避難所に指定されている敷地内に、近隣住民が多数詰めかける可能性も考えられる。こうした事態に向けての対策はどうなっているか

→ 避難所としての受け入れ態勢について、天王寺区役所との間で話を進めている。近辺の一時避難場所は東高津公園であり、本校は指定されているわけではないが、区役所をはじめ近隣の町内会にも本校の鍵を預けている。飲料水や毛布などの備蓄、トイレの使用などについても、生徒だけでなく近隣住民への対応に向けても体制を整えておくことが必要だろう。

・備蓄水については保存期間のこともあるので、先ほどの体育祭で配布する飲料水を関連させて、保存、配布を計画してはどうか。

・私立高校の方が、この点では進んでいるので、公立高校も府・市・区との連携の上、避難所としての高津高校の役割を明確にしておくとともに、防災についての講演の機会を用意するなどしても良いだろう。

##### ②スクールマップについて、

他校に類を見ない素晴らしいものとなっているが、文字の配置やフォントなどを工夫すればさらに良いものとなる

##### ③伝統文化の学びについて

能舞台や文楽など高津の近辺では出前講演など行っている。文科省も予算を計上しているので、利用について校内で相談してみてもどうか。

今後の日程（予定）

### 第3回 平成29年3月下旬

#### ／平成28年度 第3回学校協議会議事録

○日 時：平成29年3月22日(水) 18時30分～19時30分

○場 所：大阪府立高津高校 校長室

○出席者（敬称略、委員は50音順）

#### 委員

高尾 千秋（神戸大学発達科学部非常勤講師）

竹村 伍郎（地域情報誌「うえまち」編集局長）

中川 哲也（本校前PTA会長）

前園 幸（本校PTA会長）

森田 英嗣（大阪教育大学教育学部教授）

#### 事務局

村田 徹（校長）、上田 信雄（教頭）、石田 暁（事務長）

伊勢田佳典（首席）、望月 俊紀（進路指導部長）、菅 康之（企画広報部長）

吉川 智規（企画広報部・記録係）

#### 【会議概要】

##### 1. 校長挨拶

##### 2. 学校からの説明

（1）平成28年度学校評価及び平成29年度学校経営計画について

・平成28年度の学校経営計画について、おかげさまで概ね達成することができたため、ほとんどの項目について、平成28年度学校評価の自己評価は「◎」または「○」としている。

・とりわけ、「課題研究講座の充実」については、これまで大学等外部機関との連携講座へ

の生徒の参加人数はのべ 1,300 人台であったが、本年度は 1,600 人を越えた。本校では文理学科だけでなく普通科にも奨励しており、生徒の満足度も高い(92.3%)。

・このような取組みの充実の結果として、2月のGLHS10校合同研究発表会において、昨年度の大阪府教育委員会賞に続いて、本年度も大阪大学賞をいただくことができたものと考えている。

・「学校教育自己診断」については、経年変化を確認するため、例年通り、肯定率 80%以上及び 60%未満の項目について記載・分析を行っている。

・「土曜講習や補習等の内容の充実」及び「教育課程を再構築する」「遅刻者数」については、残念ながら評価指標には達しなかったが、来年度に向けて原因を確認・分析するとともに、より効果的・効率的な組織運営に努めることで、生徒のサポート体制のさらなる向上に努めたい。

・平成 29 年度学校経営計画は、平成 28 年度学校経営計画と基本的には大きくは変えていない。中期目標での追加・変更点については以下の通り

・「魅力ある授業の実施」については、現中学 2 年生から新学習指導要領や大学入試改革が実施される予定となっていることを踏まえ、3 年後を見据えた目標「高津授業メソッド」の完成を新たに設定した。

・「海外の科学先進校との交流促進」については、台湾、ニュージーランド等交流対象校をさらに拡大する方向で調整している。

・また、「働き方改革」が求められる中、安全衛生委員会の機能をあらためて見直すことなどにより、生徒はもとより、保護者・同窓生・教職員が「チーム高津」として一丸となり、「みんなが、健康で頑張れる」学校づくりに向けて、さらなる充実を図っていきたい。

## (2) 平成 29 年度入試大学合格状況について (中間報告)

・今年度のセンター試験は国語が大幅に難化し、英語がやや易化した。これに加えて生物基礎が大幅に易化したので、文系の生徒には国語の失点を生物基礎でカバーできた者が多く、昨年度より平均点は上がった。しかし理系の生徒には、生物基礎のように国語の失点

をカバーできる科目がなく、結果として平均点は昨年度より下がっている。

・京都大学・大阪大学で後期入試が実施されなかった影響もあり、いわゆる京・阪・神3大学の現役合格者数は現時点で43と昨年をやや下回っているが、3年続けて現役で40以上、現浪合わせて70以上の結果を残せており、進路指導に関するノウハウを一定確立できたものと感じている。

・今後は、得点率8割以上の生徒を増やすとともに、6割未満の生徒を減らすことにより、国公立大進学者数をさらに増加させることを具体的な目標として取り組んでいきたい。

### (3) その他

#### ○記念祭について

・来年度から、熱中症予防のために体育祭と文化祭を分離して行うこととした。(体育祭6/7、文化祭9/2・3予定) ミストシャワーの配備等は、昨年度までと同様に行う予定で、熱中症対策に万全を期す。

・結果として、体育祭ではユニフォームやデコレーションパネルの作成などの日程がタイトになるが、後期終業式の際、体育祭実行委員長(生徒)が「形は変わるが、みんなで協力して、より良い新しい記念祭を創造しよう」と呼びかける場面もあり、高津生の前向きな姿勢に、あらためて伝統の力を感じた。

#### ○平成28年度学校教育自己診断結果について

・昨年度と比べると、下がっている項目も見られるが、ここ3年間では、大きな変化はなく、概ね安定した高評価をいただき、喜んでいる。

・個別では、項目4「本校の授業には、プロジェクター等の視聴覚機器やコンピューター等の電子機器が積極的に取り入れられている」、項目14「本校の記念祭をはじめとする学校行事やSSH・GLHSとして設定されている活動は、充実している」の評価が高い。

・一方で、項目15「本校の自治会活動は活発で充実しており、活動時間や活動内容は適切である」での肯定率が減少しており、生徒の自主性を大切にしている本校においては寂し

い結果となっている。来年度は、主担当者を配置するなど、改善に努めていきたい。

### 3. 質疑応答、及びご意見

#### (1) 平成 28 年度学校評価及び平成 29 年度学校経営計画について

・「平成 29 年度学校経営計画」では、「31 年度までに」という文言が多いが、これは何か意味があるのか

⇒ 教育庁から「中期的目標欄は、『3 年後』の目標を記載するように」というアドバイスをいただき、繰り返し感があったが「31 年度」と明記している。府立学校全体の統一感及び、「3 年後」と目標達成の時期を明確にすることで、教職員が一体となって取り組む道標にもなるものと期待している。

・平成 29 年度学校経営計画についても、2020 年の大学入試改革など、しっかりと将来も見据えた内容となっており、適当である。「働き方改革」等も含めて、社会全体がめまぐるしくまた大きな変化を余儀なくされる中で、新たな取組みを始めることは極めて困難なことだが、学校としての一体感をさらに高め、生徒たちの能力を最大限引き出すことができるよう、効果的・効率的に取り組んでもらいたい。

#### (2) 平成 29 年度入試大学合格状況について

・中間報告ということだが、国公立大学への現役合格者数をはじめ、今年度も概ね順調な結果を収めていただいている。

・単に、難関・有名大学への進学者数ということにとどまらず、高津高校ならではの「体験型進路学習」などを通じて、それぞれの生徒が自らの適性等に応じた大学選択に基づいて進学先を決定しており、その数以上に大きな成果を挙げているように感じる。

#### (3) その他

○平成 28 年度学校教育自己診断について

・教職員向けの質問項目 9「本校の生徒指導方針は適切で、すべての教職員に共有されている」は、質問項目の中に 2 つの内容が入っており、両方をクリアしないと「あてはまる」とは答えにくくなっている。アンケートの主目的は改善にあると思うので、原因が特定できるように質問項目を分けた方がよいのではないかと。

⇒ 3 年前に一度大きく改定を行い、その後、経年変化を見るため、基本的には項目数も含

めて大きな変更は行ってないが、当然、アンケートの目的はご指摘のとおりであり、来年度に向けてあらためて検討させていただきます。

・ただ、質問を分けると項目が増えてしまう。「トイレ」についての質問は、生徒への質問項目にあるので、教職員向けの質問から削除してもよいだろう。

⇒ 併せて、検討させていただきます。

・教職員向けの質問項目 22「本校が行っている教育活動について、中学生や保護者に積極的にアピールできている」に対する肯定的な回答が多くなっている。高津高校の実態をより多くの人に、より良く知っていただくことは重要であり、好ましいことだと思う。何か、改善に努めたのか。

⇒ 大勢の方が参加して下さる「学校説明会」での説明内容・方法を毎年改善していることに加えて、各中学およびそのPTA等が主催される小規模な説明の依頼が増えてきているが、それらの希望に丁寧に対応していることも一因だと思われる。これらの地道な取り組みの成果として、本校の志願倍率も高くなっており、ますます社会の期待に応えることのできる高校へと進化・深化していければと考えている。